

「一度変わってしまったものは…」

いまでは当たり前になったメールですが、この機能が便利である理由の一つに、同じ文章を一度に何通も出すことができるということがあります。使い慣れてしまうとあまり気にならなくなりますが、メールがないころはどうだったのでしょうか。

例えば会社から100名の顧客に招待状を送る場合、今なら「宛先」に100名分のアドレスを入れればあとは1クリックです。しかも1通でも100通でもコストは変わらず基本的には無料です。

以前なら最初に紙媒体の招待状を100枚用意しなければいけませんでした。コピー機すらなくて手書きの時代もあったわけです。さらに封筒に住所を書いて、切手を貼り、紙を追って封入します。それを郵便局に出しに行くと、仕分けされて（当然これも以前は人力でした。）配達され、ようやく自宅に届くわけです。

1通と100通ではコストが全く違います。紙代、封筒代、切手代など。なぜお金がかかるかと言えばそこに人件費が生じるからです。郵便局が大変だった年賀状も徐々にメールに置き換わっています。

いまやメールなしでは仕事が進まないのは明らかです。ただメールによって多くの仕事が消えていることは事実です。一度変わったものは元には戻せません。いまさらメールを止めるとか、有料にすることもできないでしょう。つまりいままであった仕事が復活することは考えにくいということです。

塾の先生の授業を通信で見られるようになったことで、中小の塾の経営が難しくなっています。もちろん対面で授業を受けるメリットはありますが、塾の数が減っているのは事実です。少子化とも相まって塾の講師の仕事が厳しい環境に追い込まれています。学校も他人事ではなくなっていくと思います。

技術の発達に伴うこの流れに逆らうことは難しいと思います。できることは「何がなくなるのか」を考えて見極めること。予測をすべての的中させることはできないにしても、ICTに代替される産業を想定して生き方を決めることは必要不可欠だと思います。

新しいビジネスを発明して世の中を便利にすることが人間の働く場所を奪います。しかしそれを嘆いても一度変わったものは元には戻りません。大事なことは変化に対応して生き抜く力です。常に最新の情報にアンテナを立てておくことが、生き残るためのポイントだと思います。